

日本近代文学研究資料の保存とアクセスについて：
カリフォルニア大学バークレー校所蔵の村上濱吉・三井文庫・
遠藤周作旧蔵資料を中心に

マ ル ラ 俊 江

要旨： カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館が所蔵する資料群の中に、日本近代文学研究の基礎資料として一部特筆すべきものに村上濱吉・三井文庫・遠藤周作の旧蔵資料と、極少数ではあるが、坪内逍遙・福地桜痴・芥川龍之介等近代作家による自筆草稿が写本コレクション中に含まれている。これらの資料群とそのアクセスについて、デジタル化の状況も含めて現状をお話しするとともに、研究資料の有効利用を目指した国際的協働の可能性について考えてみたい。

1. はじめに

私が勤めるカリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館 (C. V. Starr East Asian Library, University of California, Berkeley; EAL) は、1947 年に学内に分散していた中国語・日本語・朝鮮語・モンゴル語・チベット語資料約 75,000 冊がまとめられて設立された¹。その後 75 年が経過し、今では総蔵書数は 122 万冊、内日本語所蔵資料は 43 万冊 (2021 年 6 月現在) を超えている²。

図1および図2に、図書館関係者には馴染みの深い OCLC WorldCat に登録された当館の所蔵情報を基に所蔵資料をタイトルとアイテム単位で分野別に内訳を示す。これらは、WorldCat 上の登録データを基にしているため、未整理資料は数に入っていない。また、アイテムというのは資料に添付されたバーコードに匹敵し、古典籍等帙に入っているものはその帙にあたる。それぞれ、OCLC の WorldShare Collection Evaluation Service および GreenGlass という 2 つの異なるツールを使ってデータを抽出した。

図1 UC バークレー所蔵日本語資料の分野別内訳 (タイトル数)

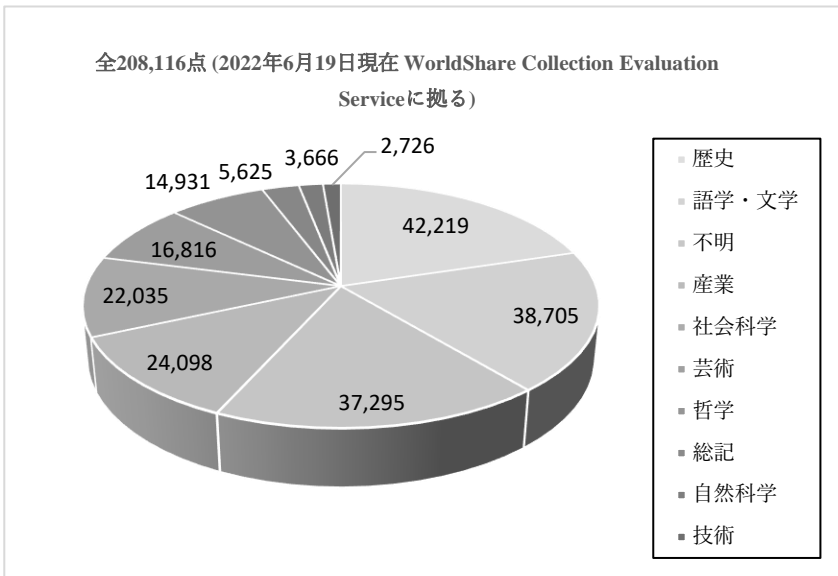
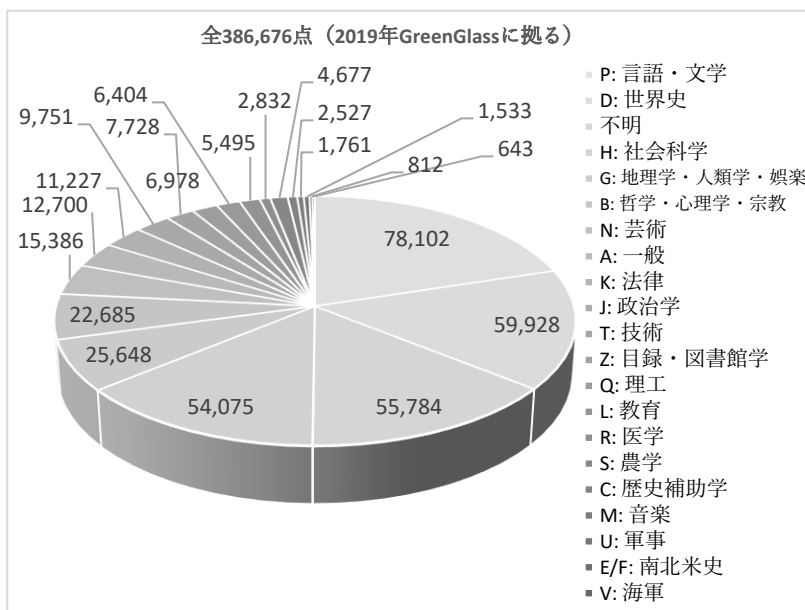


図 2 UC バークレー所蔵日本語資料の分野別内訳 (アイテム数)

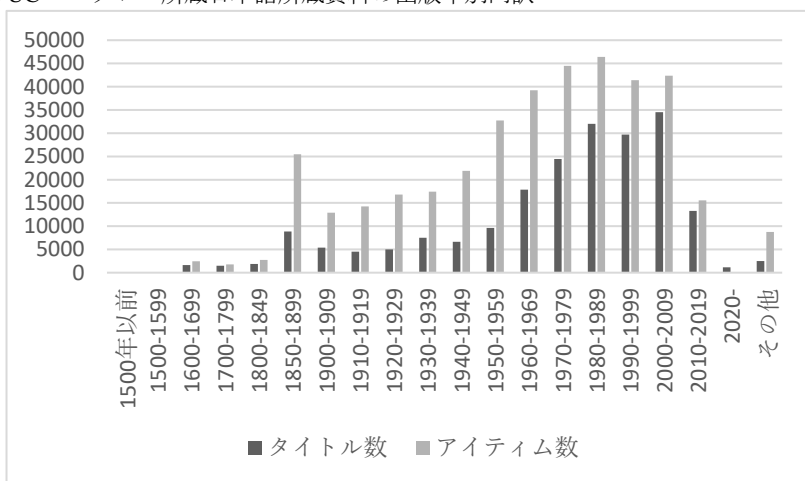


2つのグラフで分類項目の粒度が違っているので細部ではわかりにくいかもしれないが、目立って多いのは語学・文学、歴史、不明、社会科学である。この「不明」という分類について、実はこの2つのツールはどちらも米国議会図書館 (Library of Congress; LC) の分類システムをベースにしてデータ分析をしているのだが、当館ではこれとは異なる分類システムも使っているために「不明」とされてしまう資料がたくさんあるというわけである。「不明」とされている資料の中には、ハーバード大学燕京図書館作成の Harvard-Yenching (HY) 分類システムで分類されている資料群の他、三井文庫や村上濱吉旧蔵書等文庫でまとめられて貴重書庫に保管されているもの、新聞資料・マイクロ資料等いろいろ

ある。従って、語学・文学関連の資料は、ここに挙げられている数より実際は多いということになる。

図3は、図1と図2で使ったデータを基に、当館所蔵日本語資料を出版年別に見た場合のタイトル数とアイテム数を示したものである。右端の「その他」は規定の年限枠に入れられなかったものになる。

図3 UCバークレー所蔵日本語所蔵資料の出版年別内訳



当館の日本語所蔵資料中まとまって収蔵されるに至ったコレクションの内、特に文学に関するものとしては以下のようなものがある：

- 1948年：村上濱吉旧蔵資料(明治・大正期の日本文学書を中心に当時約11,000冊あったとされる)購入
- 1950年：三井文庫旧蔵資料(和書・漢籍・朝鮮本合わせて当時10万点から成っていたとされる)購入
- 1986年：遠藤周作旧蔵資料(昭和期の文芸書を中心に当時約3,800冊

あったとされる) 寄贈³

以下に、これらのコレクションの現状について説明する。

2. 村上コレクションと三井コレクション

村上コレクションの旧蔵者村上濱吉は、1885 年に鈴木久次郎の四男として静岡県に生れ、後同郷の実業家村上太三郎 (1857-1915) の養子となったが、東京高等師範学校英文科を卒業し、一時は早稲田中学で教鞭を執ったこともある。太三郎の援助を得て濱吉は 1910 年にヨーロッパに留学、ロンドン大学およびベルリン大学で経済学を学び、1914 年に帰国後太三郎の養女登子と結婚、分家して村上と姓を改めた⁴。

1937 年に、村上濱吉監修『明治文学書目』が村上文庫蔵版として出版される。『明治文学書目』は国立国会図書館デジタルコレクションに白黒画像が公開されているが、こちらでは序文が欠落しているので、以下に濱吉の序文の冒頭部分を書き記す:

明治時代は我が国歴史に於て国民的統一の完成した時であり 東西文明を融和して世界に躍進する基礎を固めた時であった 我国に於てこれ程大切な時代は明治以外に無いと思ふ... (略) ...凡そ研究に最も重要なるは正確にして豊富なる資料である 然るに資料は歳と共に減滅するものである故 出来るだけ早く完全に蒐集する事が必要である 而してこの蒐集せる資料をよく整理して諸研究に便ならしむる様に致すが同時に肝要である私は此の考を以て 明治研究資料蒐集を企て諸研究者に供せんと志し 先ず

第一歩として 明治文学書の蒐集に着手したのは大正十三年二月であった

もちろん、実業家である濱吉には、資料の収集や目録の作成を助けてくれる人物が必要だった。その任務に当たったのが、川島五三郎である。川島は、『明治文学書目』の跋中に、村上文庫の蔵書の内容について、「純明治文学書のみでなく...特に社会政治等の文化書を多くいれ...、本書目は...村上文庫所蔵明治文学初版本三万余冊を底本として、原本校合に重きを置」いたと書いているが、実際 1948 年に UC パークレーに、東京で輸出入ビジネスをしていた内山進という人物から購入の話があった当時は、購入対象は 11,000 冊だったとされている⁵。そして、当館の貴重書室キュレーターによる最近のインベントリ調査では、9,100 冊強が確認されている。内容的には、確かに文学書以外の資料も多く含んでおり、特に海外の日本研究コレクションでは収集対象に入れにくい翻訳本や外国文学に関する書籍を多く含んでいるのが特徴的だと言えるだろう。

また、川島は『明治文学書目』はもともと「文庫所蔵本のみ」の目録を作製する計画（だったものが、後に）編纂方針は全明治文学書の総合編纂に結局変更し」と書いている。川島は、第一堂という古書店を営んでいたようで、1920 年代後半には東京古書籍商組合の評議員を勤めたり、組合発行の目録類の編纂にも熱心に関わっていたようだが、1966 年に 75 歳で亡くなるまで、村上文庫の行方については何も語らなかったと、八木福次郎氏は書いておられる⁶。

さて、村上コレクションについては、当館の OPAC で“Murakami Collection”と入力してキーワードサーチをしていただくと、全点には届かないが、とりあえず約 5200 点は一覧できる⁷。この一覧中には、雄松堂書店が 1988 年に刊行を開始したマイクロフィッシュ版『明治期刊行物集成: 文学・言語編』に入っている複製資料も一

部含まれている。参考まで、この『明治期刊行物集成』には、村上コレクションを含む当館所蔵資料 2,140 点が複製されている。また、最近のインベントリ調査で、村上コレクションには OPAC にレコードのないものが少なくとも 110 点はあることがわかったので、それについてもここで報告しておく。

ここで、当館の村上コレクションの Call no. と『明治文学書目』の関係について話しておきたい。というのも、村上コレクションの Call no. は、『明治文学書目』に基づいているからである。

『明治文学書目』には、「明治天皇に関する書」、「明治文学総記書誌」とあり、続いて以下にリストしたような項目が見える:

A:著者別第一輯 [雅號及本名の五十音順],p.38-325 (4,048 タイトル/5,087 冊)

著者別第二輯 [同], p. 326-523 (1,685 タイトル/2,335 冊)

B:補遺第一輯増補及訂正 [其一]/ 追補, p. 3-5 (12 タイトル/12 冊)

補遺第二輯増補及訂正 [其一]/ 追補, p. 6-9 (20 タイトル/51 冊)

補遺著者別追補 [第二輯追補]/ 追補, p. 10-13 (47 タイトル/49 冊)

C:明治文學和歌・新體詩書目 [年代順]/ 詩歌,p.1-130 (657 タイトル/779 冊)

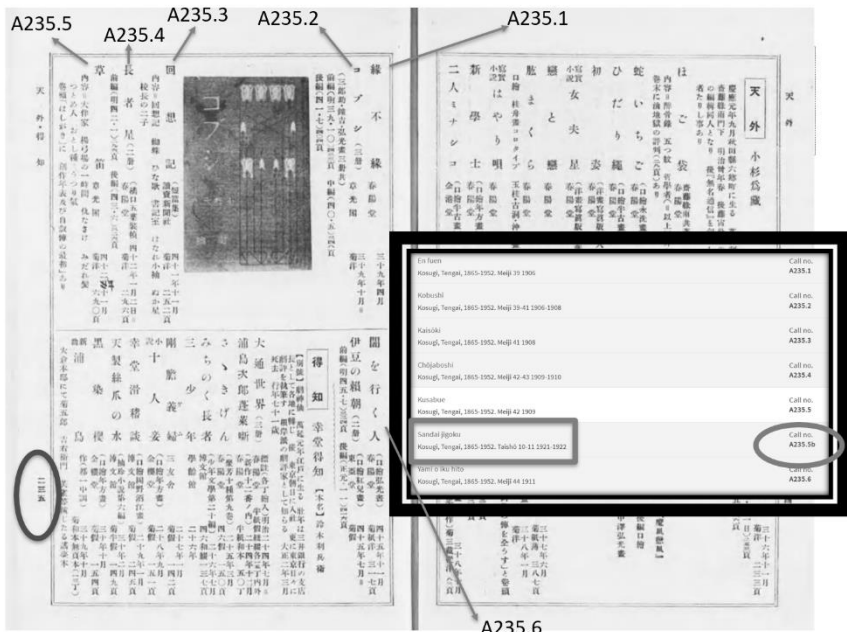
D:明治文學叢書及合集書目 / 叢, p. 1-72 (135 タイトル/815 冊)

村上コレクションの Call no. はその資料の著者ないしは著作がどこにリストされているかによって、A・B・C、あるいはDで始まり、その後は『明治文学書目』の頁番号、そして小数点以下の数字はその頁内で何番目にリストされているかを示している。尚、A から D までそれぞれの項目に含まれるタイトル数と冊数については、上記各項目の末尾の括弧内に記した。

ただし、Call no. については他にも注意が必要な点があるので、ここで具体的に例を挙げてみていく。小杉天外の作品は『明治文学書目』では 234 頁から始まっていて、235 頁については、Call no. ブラウズサーチの結果によれば当館は 1 番目から 6 番目まで所蔵しているが、さらに A235.5b という Call no. でタイトルが『三代地獄』という作品も所蔵しているようである（図 4 参照）。

つまり、小数点以下の数字の後ろにアルファベットがついている場合は、『明治文学書目』のその位置に挿入するために当館でつけ足した資料であることがわかる。

図 4



ところで、この『三代地獄』は現物検証の結果、三井文庫旧蔵資料のうち土肥慶蔵の鶚軒文庫旧蔵資料であることがわかった（図5参照）。さらに、これは著者小杉天外から鶚軒に贈呈された資料であることが書き込みからわかる。このように、現在の村上コレクションの中には、もともと三井文庫旧蔵資料だったものや、それ以外の経路で当館に収蔵されるに至った資料が一部混入している。最近の村上コレクションのインベントリ調査では、少なくとも173点の三井文庫旧蔵書が確認されているが、実際はもっと多いと考えられている。この『三代地獄』については、当館OPACの書誌データにも鶚軒旧蔵書であることは注記されているが、多くの場合、村上コレクションに含まれる三井文庫旧蔵資料には、残念ながら何も注記がついていない。

図5



参考まで、以下に 1949 年 3 月当時購入対象として当館に提示されたと言われている三井文庫旧蔵資料の内訳を記す⁸⁾:

- 1) Basic Collection 基本図書 (20,000 冊): Call no. は 1-□-□
- 2) Gakken Collection 土肥慶藏鶚軒収集資料 (28,195 冊): Call no. は 2-□-□
- 3) Imazeki Collection 今関天彭収集漢籍等資料 (19,838 冊)
- 4) Motoori Collection 本居大平家旧蔵資料 (8,694 冊): Call no. は 3-□-□
- 5) Sōshin Collection 三井高辰宗辰収集資料 (22,742 冊): Call no. は 4-□-□
- 6) Map Collection 三井高堅宗堅収集地図資料 (2,000 点): Call no. は A(〜J) □
- 7) Asami Collection 浅見倫太郎収集朝鮮本資料 (6,737 冊)
- 8) Rubbings Collection 三井高堅収集聴氷閣文庫拓本・法帖 (500 点)

計 108,706 点

本居文庫の場合のように、実際はその多くは当館に届いていないとされるコレクションもあり、この数は決して当館に届いた資料数だと考えることはできない⁹⁾。さらに 1950 年の到着後に、重複本は他館に分けるなどして整理されたことが知られている。尚、三井文庫旧蔵資料の古典籍は固有の Call no. が使われているが、近代の資料はそうでないことが多く、Call no. からの旧蔵者の特定は必ずしも容易ではない。しかし、三井文庫旧蔵資料には蔵書印やラベル等何かしらの痕跡があることが多いので、現物を見ればそれとわかることが多い。ここに挙げた三井文庫旧蔵資料の内、2)の土肥慶藏鶚軒旧蔵資料は 28,000 冊と最も多く、近代文学に関わる資料をかなり含んでいる。

これらの資料の内、江戸期版本と写本 (約 7,800 冊) については国文学研究資

料館を中心とする調査チームにより 1980 年代に調査され、成果として目録が出版されている¹⁰。写本コレクションというのは、もともと上記の個別資料群に属していたものを、当館に届いてから日本で作成された手書き資料だけを抜き出して別にまとめたものである。写本コレクションは、図書館システム上ではほとんどカタログされていないので OPAC で検索することはできないが、書写年代としては室町時代から近代に及ぶ。

図 4 の 235 頁の下の段には幸堂得知(1843-1913)の作品が並んでいるが、最後は A235.18 で『新曲浦島』(1906 年)になっている。ところが、当館の OPAC ではさらに A235.19、A235.20、A235.21、A235.22 と続いている。村上コレクションでは、このように同じ作家の作品の最後に番号をつけ足して追加されているようなケースも多く見られる。村上濱吉旧蔵資料の多くには、蔵書印等の押印がないことから、これらの『明治文学書目』に記載のない資料が 1948 年の購入当時村上コレクションの一部として当館に来たものか、他の経路で入ってきたものか今となっては判断が難しい。

ところで、A235.18 の『新曲浦島』については、当館には村上コレクション以外にもう 1 点別に所蔵がある。原表紙に貼付されたラベルから、こちらも鵜軒文庫旧蔵書のようなのだが、Call no. は LC 分類に変えられてしまっている。幸い、Google によりデジタル化されており、北米では HathiTrust で画像が公開されている。念のため、幸堂得知の作品で村上コレクション以外に所蔵はないか OPAC を検索してみると、『百夜草：新曲』(法木徳兵衛, 1911 年)というのが見つかった。『明治文学書目』には、この作品は掲載されていない。こちらも同様に、Google によりデジタル化されて、HathiTrust で画像が公開されている。原

表紙に貼付されたラベルから、こちらは三井コレクション中本居文庫旧蔵書であることがわかった。

HathiTrust は、2008 年に学術利用のための共同リポジトリとして設立され、200 を超えるメンバー機関が所蔵資料の画像をここに集約してデジタル化コンテンツを保存活用している。2022 年 12 月 18 日現在、HathiTrust には 1,783 万点の資料の画像データが入っているようだが、この内米国で閲覧可能なのは約 718 万点のようである。これを言語別に見ると、日本語資料では約 7 万 8 千点が閲覧可能、その内約 4 万 3 千点は慶應義塾大学の所蔵資料で、約 1 万 5 千点はカリフォルニア大学の所蔵資料であることがわかる。

米国著作権法の規定は複雑だが、HathiTrust では“public domain”にあつて閲覧可能な資料については、大雑把に以下のようなカテゴリでまとめている¹⁾：1) 米国政府刊行物、2) 1927 年以前に米国内で出版された著作物、あるいは、3) 1897 年以前に米国外で出版された著作物。さらに、3) については注意書きがあり、米国の IP アドレスを通してアクセスする利用者は、1897 年から 1926 年の間に米国外で出版された著作物についてもアクセスできるが、米国以外の IP アドレスを使う利用者はアクセスできないとしている。また、2) に関して、これは筆者が執筆時の 2022 年時点での情報であり、この年限は毎年更新される。

さて、『新曲浦島』と言えば坪内逍遙を思い浮かべる方が多いだろう。

『明治文学書目』中、逍遙のエントリは 14 ページに及び、書影も多く挿入されている。村上コレクション中逍遙の作品は翻訳を含めて 130 タイトルもあり、特に充実していると言えそうである。逍遙は、濱吉も一時教えていたとされる早稲田中学に 1895 年の創立時から関わっており、教頭として勤務していたり

するので、濱吉は逍遙には格別な敬意を払っていたと思われる。前述のように、村上濱吉旧蔵資料の多くには蔵書印等の押印はないが、皆無というわけではなく、実際逍遙の著作物 130 タイトルについて現物を検証したところ、図 6 に示す 3 点に「東京上大崎村上濱吉」と読める蔵書印が確認できた。

濱吉の蔵書印は、与謝野晶子関連資料でさらに多く見られる。与謝野晶子に関しては、『みだれ髪』（1904 年）から『光る雲』（1928 年）まで 57 タイトルが村上コレクションに入っているが、その内 21 点に濱吉の蔵書印が確認できた。さらに、図 7 の写真では晶子による署名もあるのが確認できる。

図 6

村上濱吉の蔵書印記

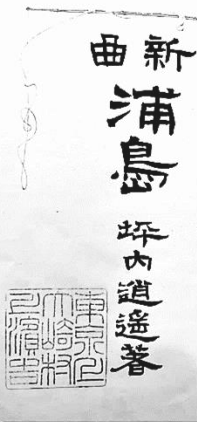
A177.17

通俗倫理談
東京：富山房，1903



A178.1a c.2

新曲浦島 / 坪内逍遙著
東京：早稲田大學出版部，明治38 [1905]



A179.8

劇壇の最近十年
東京：米山堂，大正6
[1917]

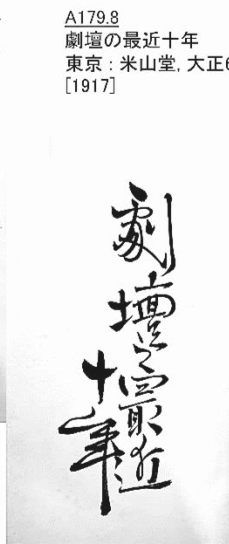


図7

与謝野晶子関連書: 57タイトル(内21点に村上濱吉蔵書印記)

A42.10

常夏. 東京: 大倉書店, 明治41 [1908]

A42.17

青海波. 再版. 東京: 福岡書店, 大正4 [1915]



図8は、与謝野鉄幹と晶子の合著『巴里より』（1914年）の表紙とその内側の見返しである。この本にはこの2作を含む数点の徳永柳洲による挿画が入っているが、この2点はそれぞれ「巴里の女」および「セエヌ河岸の古本屋」というタイトルがついており、おしゃれな出来上がりになっている。序文中、鉄幹は「柳洲君の才筆を添へ得て初めて此書を世に出だす意義を生じたやうに思ふ」と言っており、柳洲の貢献に謝意を表明している。また、この本は金尾文淵堂の出版になるが、逸見久美氏によれば、晶子の全著作の三分の一近くが金尾文淵堂から刊行されていたとのことで、そのような特別な関係もあってこのこだわりの装幀が実現できたのかもしれない¹²。

図8



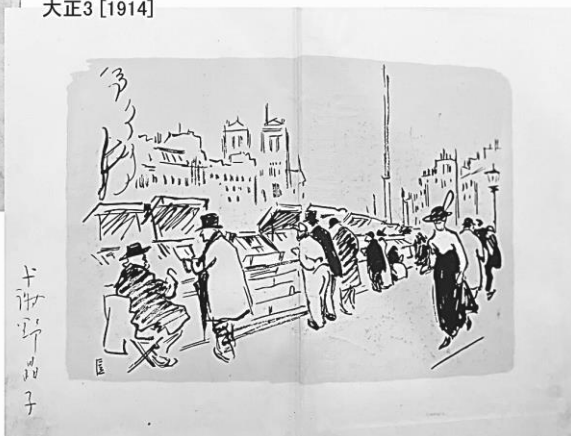
表紙: 徳永柳洲挿画
「巴里の女」

見返し: 徳永柳洲挿画
「セエヌ河岸の古本屋」

与謝野晶子関連書: 57タイトル(内36点に自筆署名入り)

A43.4

巴里より / 与謝野寛, 与謝野晶子合著. 東京: 金尾文淵堂,
大正3 [1914]



与謝野晶子関連資料57タイトルの内、晶子による署名が入っているのは36点にのぼる。村上コレクションの中には、他にも作家による署名が書き込まれている資料が少しはあるが、晶子のそれは圧倒的に多い。これについて、何年なのかは不明なもののある年の12月13日付けで晶子から濱吉に宛てた書簡に、「御厚情にあまへ候やうの心ぐるしき御ねがひに候へど京なる友にもとめもらひ候ひしこの書帖をあなた様に御かひとりをねがはしと存じ申すにて候。よしと思召すほどのあたひにてよろしく候。」とあるのは示唆的である¹³。

前述の通り、三井文庫旧蔵資料の内鶚軒旧蔵資料には近代文学に関わる資料もかなり含まれている。土肥慶蔵は、1866年に越前国武生領の医者五世石渡宗伯の次男として生まれ、後母方の叔父土肥淳朴の養子となり、土肥姓を名

乗った。1891年に東京帝国大学医科大学卒業後、1893年にヨーロッパに留学し、帰国後の1898年に東京帝国大学医科大学教授となり、皮膚科学と性病学を大成する。漢詩文を好み、鶚軒と号すが、その鶚軒文庫の内容を知るには、手書きの『鶚軒文庫蔵書目録. 和漢書分類之部』（1929年）があり、国立国会図書館のデジタルライブラリーで公開されている¹⁴。鶚軒文庫は、没後三井文庫に移管され、戦後に国立国会図書館（日本漢詩文関係約3,400タイトル7,900冊）、東京大学総合図書館（和漢医学書約1,500タイトル4,600冊）、東京医科歯科大学（西洋医学書約1,500冊）、およびUCバークレー東アジア図書館に分散された。

UCバークレーの土肥慶蔵旧蔵資料については、まだカタログされていないものも多いが、漢詩文については2021年に町泉寿郎氏が調査され、その成果も公表されている¹⁵。これを機に、当館でこれまで未整理だったこの漢詩文コレクションについては、カタログが現在少しずつ整理を進めている。町氏の目録では、以下の写本4タイトルを含む、江戸時代から昭和期までの534タイトルがリスト化されている：

- MS1727 (2-16-651): 玉峰詩鈔 / 綱取善成著; 大沼枕山朱筆添削. 明治12-13 [1879-1880] 自筆詩稿. 写1冊
- MS1293 (2-16-976): 月洲稿 (甲申稿). 江戸時代後期 著者自筆稿. 写1冊
- MS2332 (2-16-1499): [詩文雜録] (闕里換骨/幕末詩文抄出) 幕末明治初期 吉田松陰門下の写本か. 不分巻写1冊.
- MS1264 (2-16-1706): 春山詩草 / 溝部実光 (有謙・欽斎) 著. 江戸後期自筆稿本. 写1冊

この目録に掲載されている資料は、大半が近代のもので、当館のCall no. では2-16-□となっているものである。従って、他のCall no. に変えられてしまったものについては、このリストには入っていない。例えば、鶚軒旧蔵の漢詩文コレクションから少なくとも3タイトルは、村上コレクションに入れられてしまっていることがわかっているが、それらはこのリストに掲載されていない。

実は、写本コレクションには上記以外にも以下のような漢詩関連の鶚軒旧蔵書が入っている（これらについては『鶚軒文庫蔵書目録. 和漢書分類之部』で確認できなかった）：

- MS683: 大家詩集. 江戸時代後期写1冊
- MS945: 平語二十絶 / 日根野弘享. 天保12 [1841] 自筆本1帖
- MS1171: 文集録. 明治期転写本1冊
- MS2327: 詩学集 / 山田申之介著. 近世後期自筆本1冊
- MS2328: 詩文集. 近世後期転写本1冊
- MS2330: 詩文稿 / 長孝著. 近世後期-明治期草稿本4冊
- MS2331: 詩文集. 近世後期転写本2冊
- MS2334: 詩稿. 明治初期草稿本3冊
- MS2340: 詩草 / 栗生鎗吾著. 近世後期写本3冊
- MS2341: 詩藻. 明治期草稿本1冊

土肥慶蔵は、『文藝春秋』1928年1月号に、「日本の詩文集」と題した短いエッセイを寄稿しているが、そこで彼の詩文集コレクションが 5,000 種ほどになったと言っている¹⁶。国立国会図書館所蔵の漢詩文コレクションは、3,434 タイトル 7,898 冊から成るということで、5,000 種まで約 1,560 タイトル足りない計算に

なるが、町氏が論文の中でおっしゃっておられるように、この鶚軒の言う 5,000 種の中には中国人の詩文も混入しており、近代中国で刊行された資料も入っているようである。また、日本人による著作でも、三井文庫に移管された際詩文の分類から外されたものもあるようである。実際、国立国会図書館は三井文庫が使っていたと思われる「詩文□」という Call no. を大半は継承しているようだが、その一番小さい番号は「詩文 1」、一番大きな番号は「詩文 4123」となっているようである。この最後の Call no. となっている 4123 から国立国会図書館が所蔵しているとされる 3,434 というタイトル数を差し引くと 689 となり、これが当館に届いた鶚軒旧蔵漢詩文資料の数に近いのかもしれない。

国立国会図書館は、鶚軒文庫に関してリサーチ・ナビに NDL オンラインでの検索方法および検索結果一覧へのリンクを提供してくれている¹⁷。その一覧リストと前述の『鶚軒文庫蔵書目録 和漢書分類之部』、および町氏による当館所蔵「土肥鶚軒旧蔵日本漢詩文書目録（稿）」を比較すれば、三井文庫における鶚軒旧蔵漢詩文コレクションの全体像が見えてくる。ただし、国立国会図書館でも当館でも、一部については Call no. を変えてしまっている。当館に収蔵されるに至った三井文庫旧蔵資料は、江戸期以前の版本や写本等の古い資料と量物等の刷物は貴重書庫に保管されたが、近代以降の出版物の多くは開架書架あるいは遠隔保存図書館に保管されるようになり、Call no. は当時の配架場所の基準に従ってつけ替えられた。残念なのは、これらのカタログ済の近代資料の書誌データに三井文庫旧蔵資料であることが記録されていないことが多いということである。従って、現物に残された Call no. ラベルや蔵書印等で確認するしか術がないことになる。

図9に、鵜軒文庫が三井文庫に移管された際に詩文の分類から意図的に外されたのではないかと考えられる資料の一例を示す。図中左は、国立国会図書館所蔵の『鵜軒文庫蔵書目録. 和漢書分類之部』の漢詩文の項目からの一頁だが、国立国会図書館所蔵の「詩文32」と「詩文33」との間に見える四角で囲った「飛鳥山碑」という資料（右の画像）には三井文庫では詩文のCall no. を付与することはなかったことがわかるだろう。この資料には、当館では「2-18-1」というCall no. がついていて、地誌や紀行関連資料がまとめられている。この目録頁中には、「飛鳥山碑」の他に、当館所蔵資料が3点見つかったが、その内2点がHathiTrustで画像公開されていた。

図9

土肥慶蔵鵜軒旧蔵日本漢詩文コレクション

5241.4.4324 詩文-32
 2-16-35 詩文-33
 詩文-36
 詩文-31
 PL818.5.T29 O8 (2-16-26) 詩文-27

NDL: 029.9-D59g
 鵜軒文庫蔵書目録. 和漢書分類之部. [1929]
 土肥慶蔵手写

UCB: 2-18-1
 飛鳥山碑 / 成島錦江. 碑文末に元文2年の年記あり

3. デジタル化の状況

ここでは、当館所蔵日本語資料のデジタル化の状況について、プラットフォームごとにまとめて紹介する。

a. HathiTrust/Google Books/Internet Archive

HathiTrust・Google Books・Internet Archive で利用できる画像は、California Digital Libraryがコーディネートして、主にGoogleがデジタル化している。2022年10月26日現在、HathiTrustではカリフォルニア大学の所蔵資料450万冊の画像が提供されており、この3つのプラットフォームではHathiTrustが一番多く提供してくれている¹⁸。前述のように、UCバークレー所蔵の日本の近代の出版物は、HathiTrustで見られるものが結構ある。そして、HathiTrustで公開されているものが、さらにDigital Public Library of America (DPLA) にハーベストされて、そこでも閲覧できるようになっている。

b. UC Berkeley Library Digital Collections

UC Berkeley Library Digital Collections は、UCバークレー図書館が所蔵している資料を独自でデジタル化したり、他の機関にデジタル化してもらったりして得られた画像をまとめて管理、公開しているウェブサイトである¹⁹。当館所蔵の日本語資料の内、古地図 (Japanese Historical Maps Collection) と双六コレクション (Sugoroku Collection) はこのサイトのフロントページから直接アクセスできるが、それ以外のコレクションは ”Browse Digital Collections” ページからアクセスできる。

- c. カリフォルニア大学バークレー校C. V. スター東アジア図書館所蔵特殊コレクション (Japanese Special Collections in the C. V. Starr East Asian Library, University of California, Berkeley)

こちらは、立命館大学アトリサーチ・センター (ARC) が提供してくれている日英二ヶ国語のプラットフォームで、当館所蔵日本語資料のデジタル画像をまとめて閲覧・利用できるウェブサイトである²⁰。ホームページから「データベース一覧」をクリックすると、5つのデータベース（古典籍データベース・双六・銅版画・美術品目録・近代書籍装幀意匠閲覧システム）が見える。この内、古典籍データベースでは、2022年12月18日現在1,070点が閲覧できる。ここには、国文学研究資料館提供の江戸期版本658点及び写本102点のマイクロ変換画像へのリンクの他、ARCが撮影してくれた版本及び写本約310点の画像が入っているが、写本コレクションからは以下の近代作家自筆草稿もデジタル化されている:

- 坪内逍遙 (1859-1935) 「歌舞伎劇の保存について」
- 福地桜痴 (1841-1906) 「元寇物語」
- 芥川龍之介 (1892-1927) 「母」
- 近松秋江 (1876-1944) 「疑惑」
- 小山内薫 (1881-1928) 「夜明け前」
- 武者小路実篤 (1885-1976) 「奈良をたつまえ」
- 幸田露伴 (1867-1947) 「挿花について」

これらの自筆草稿の内、福地桜痴の「元寇物語」だけは鶚軒旧蔵であることが蔵書印からわかるが、他はどこからきたものか明らかではない。

ARC提供のこのプラットフォームでは、AI技術を活用した翻刻支援システムが登載されており、翻字テキストを作成したり、それを画像とともに表示するのが便利になっている。一例として、芥川龍之介の「母」の草稿画像には翻字テキストが添えられているが、これは今野真二氏が「手書きテキストの翻字」という論文に掲載した同翻字テキストを画像とともに提供することを許可くださって実現した²¹。

近代書籍装幀意匠閲覧システムは、常木佳奈氏が村上コレクションから一部を撮影され、その内著作権等の問題がない315点を公開してくださっている。最初の3点はそれぞれの書籍の全ページを撮影されたが、それ以降は本文を除いた書籍の一部の画像のみとなっている。このデータベースの名前に示されているように、常木氏のご関心は明治期書籍の装幀意匠にあり、表紙・口絵・奥付・出版広告はもちろん、本の背や天地、小口部分まで撮影されている。本文を撮影されなかった書籍について、国立国会図書館デジタルコレクションで画像が公開されている場合は、そのリンクがついている。

UCバークレー図書館では、デジタル公開ができるかできないかを判断する際には、著作権・プライバシー・契約・倫理という4つのポイントを考えるべきだとしてワークフロー・チャートが作成され活用されている²²。

4. 遠藤周作寄贈コレクション

ここまで、当館所蔵の日本近代文学関連資料の内、村上コレクションと三井文庫旧蔵資料のアクセスとデジタル化の状況について話してきたが、これらの資料の多くは 1927 年以前の出版物なので、アメリカでは著作権の問題でデジタル公開できないものは少ないと思われる。一方、遠藤周作旧蔵書はほぼ全点著作権保護期間にあると推定される。

遠藤周作は東京市巢鴨に生まれ、幼少期を大連で過ごした。1933 年に両親の離婚により帰国、慶應義塾大学仏文科を卒業後、1950 年にフランス、リヨン大学大学院に留学、現代カトリック文学を研究する。帰国後、1955 年に「白い人」で芥川賞を受賞、以後多くの文学賞を受けた日本を代表する作家の一人である。遠藤周作の旧蔵書は、長崎市遠藤周作文学館及び町田市民文学館にかなりまとまって所蔵されていることが知られている。

当館所蔵の遠藤周作旧蔵書は、1986 年 1 月に遠藤周作自身から当時 UC バークレー東洋学部教員だった Van C. Gessel 氏宛に蔵書の寄贈の申し出があり、油谷英治司書と日本出版貿易株式会社（JPTC）との間で急遽輸送の準備にあたったようだ。当時遠藤は玉川学園の家を売って都内のマンションに移るようになっており、そのために大急ぎで蔵書の整理をする必要があったらしい。まだ E メールが使われていなかった当時、油谷氏と JPTC とのやり取りはエアメールで行われたようだが、当館に残された当時の通信の記録によれば、油谷氏が JPTC に遠藤宅から寄贈書を引き取って図書館に送って欲しいと依頼した手紙は 1 月 27 日付け、JPTC からの返信は 2 月 3 日付けで、2 月 8 日にはトラックで

遠藤宅から引き取るようになったとの報告がなされる、というスピードで行われたようだ。そういうわけで、情報が変わったり、指示が間に合わなかったりしたこともあったようだが、結局寄贈書の輸送は 2 回に分けて行われ、1 回目は通常の郵送（船便）で 2 月 14 日に 10 箱発送、2 回目は船積み貨物輸送で 4 月 10 日に 67 箱発送となった。この輸送に際し遠藤周作の方で寄贈書リストを作成することはなく、JPTC でも簡単なパッキングリストしか作成しなかったようである。寄贈書の概数については、遠藤自身から Gessel 氏への手紙で当初は 1,000 冊と言われていたが、後 3,000 冊と訂正されたようである。しかし、実際当館に届いた時は、3,779 冊だったとの報告がある²³。この報告にも明記されているように、Gessel 氏は遠藤周作作品のいくつかを英訳しているが、当時遠藤はすでにノーベル賞にノミネートされたこともあり、9 作品が英語の他 12 ヶ国語に訳されていたようである。この寄贈書については、メジャーな現代作家の署名入り初版本を多く含み、当館の戦後日本文学に関する蔵書を補完するものとして大いに歓迎されたことがわかる。

寄贈書の内容については、2 月 20 日付けの JPTC から油谷氏宛の手紙に、以下のように報告されている：

- A) 大部分が現代日本文学で、若干歴史・宗教が含まれている
- B) 世界文学とか翻訳本などは全体の 10% 弱
- C) 全集物は揃いのものもあるかもしれないが、不揃いのものが多いと思われる
- D) 雑誌はない
- E) 美術書・写真集なども若干含まれている

この内B)の世界文学及び中国を除く翻訳本888冊（内汚損資料を含む約140冊は後に除外された）は当館では不要と判断され、遠藤の指示により日本キリスト教芸術センターに贈られることになったようである²⁴。

寄贈書の各タイトルは、到着後当館で所蔵状況を確認の上、整理されることになるが、それには一定の時間がかかったようである。結局、この寄贈書の整理は、米国教育省から助成を得て1987年10月から1990年3月にかけて、国立国会図書館から2名、慶應義塾大学三田情報センターから1名、大阪府立中之島図書館から1名、立教大学図書館から1名の計5名の司書を日本からお招きして行われた特別整理プロジェクトの一部に含まれることとなった。このプロジェクトの整理の対象となっていたのは明治期から1945年までの三井文庫本約5,500タイトルと遠藤周作旧蔵書2,500タイトルだったという報告があるが、当館に残された記録ではこのプロジェクトで整理された遠藤周作旧蔵書は2,052タイトルとなっている²⁵。しかし、その個別タイトルについては残念ながら当館にはリストは存在していない。

そこで、2021年夏から、学生アシスタントと共に時間のある時に書架を歩いて該当資料を見つけ出すプロジェクトを始めた。以下に、これまで見つかった730冊について分析する。大部分が現代日本文学書ということで、手順としては昭和期の作家別に配列されているLC分類番号PL822からPL866に限定して、1985年までに刊行された書籍を開いて遠藤周作から寄贈されたことを示す蔵書票が貼付されているかどうかを確認することにした。その過程で、寄贈書730冊の内248冊については著者による署名が書き込まれていることも確認できた。出版年については、1928年から1985年までに広がってはいたものの、1970年代の

出版物が 303 冊と約 42%を占めていた。これら 730 冊の寄贈書の著者については、遠藤周作本人を含む 144 人となったが、その内 58 人については 1 冊のみ、内 25 人は UC バークレー図書館でその 1 冊のみ所蔵が確認できたということで、この寄贈がなければその作家の作品は当館で所蔵されることはなかったのかもしれない。それほど、現代の文芸書は海外の大学図書館では所蔵が少ないと言えるかと思うが、この寄贈のおかげで他館にもインターライブラリーローンサービス等で貸し出し提供できるようになったわけであり、その恩恵は大きい。また、寄贈書の内同じ作家の作品で特に目立って多かったのは、吉行淳之介（45 冊）・安岡章太郎（29 冊）・埴谷雄高（28 冊）・大岡昇平（26 冊）・加賀乙彦（25 冊）・三浦朱門（21 冊）だった。図 10 に、これらの作家の作品から署名の一例を示す。

図 10

UCバークレー所蔵遠藤周作旧蔵資料：署名入り本

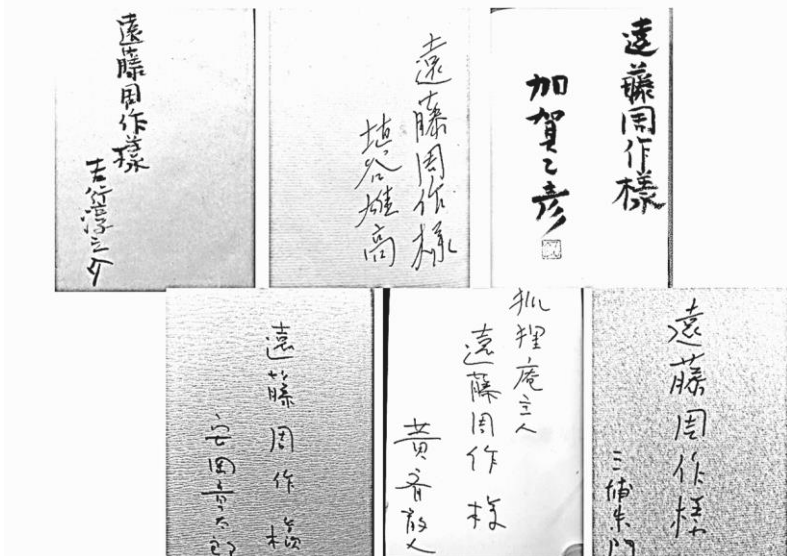
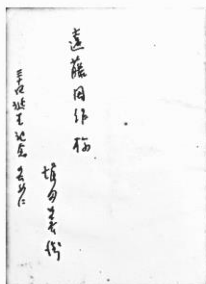


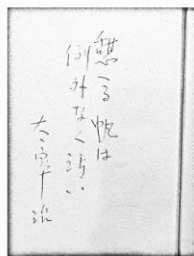
図 11 は、署名の他何かしらのメッセージが入っていたものの例である。

図 11

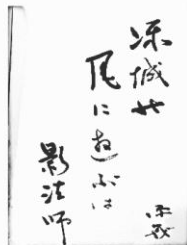
UCバークレー所蔵遠藤周作旧蔵資料：署名入り本 (2)



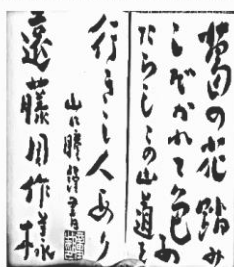
廣場の孤獨 / 堀田善衛 (1951)



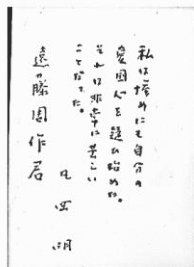
櫻桃の記 / 伊馬春部 (1967)



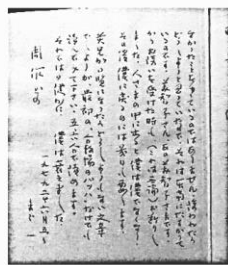
ロダンの首 / 角川源義 (1956)



人殺し / 山口瞳 (1972)



コンスタンチア物語 / 丸岡明 (1949)



分教場のバツハ / 串田孫一 (1978)

さて、今回の遠藤周作旧蔵書をめぐるインベントリ調査の報告は、前述のように昭和文学の一部の開架書架を調査した途中報告に過ぎない。また、当館所蔵資料の内文学関連では少なくとも 1 万 6 千冊は遠隔図書館に保管されており、こちらは閉架なので調査は困難と言わざるを得ないことを付け加えておく。

5. 保存とアクセス

日本文学に関する所蔵資料については、一般的に出版ないしは製作年が江戸期以前なのか明治以降なのかで取り扱いがかなり異なってくる。海外の研究図書館では江戸期以前の資料は大抵貴重書庫に保管されていて、利用には予約が必要だったりしてアクセスがより厳しくなっている。そのため、書誌データの記述は詳細であることが望まれ、特別な目録規則が存在している。明治期以降の出版物のカatalog化には、通常現代の出版物と同じ目録規則が使われているが、保管場所としては当館では村上コレクションと写本コレクションは貴重書庫、それ以外は開架書架ないしは遠隔図書館になっている。ところが、近年になって特に近代中国の線装本資料の盗難が発覚したこともあり、明治期の袋綴じ資料は全点遠隔図書館に移管され、開架書架に残された明治期の出版物は原則貸し出しはしないことになった。複写のリクエストは受け付けているが、当館以外の利用者には現物へのアクセスのためにお越しいただかなければならないことになってしまった。同様なことは日本の図書館でも起こっているようで、例えば国立国会図書館の所蔵資料でも現物貸借、あるいは複写に実質対応してくれない近代の資料は相当数あるかと思う。デジタル公開ができれば、多くの研究者の助けになるかと思うが、デジタル化には相当の資金と労力がかかり、当館のような州立大学の図書館では外部資金なしにはとても実現できない。

遠藤周作旧蔵書のような現代の資料については、著作権の問題があるため資料全体のデジタル公開は当然不可能だし、そもそも研究者のご関心は本文よりはコレクションとしてのまとまりだったり、現物に書き込まれた情報だったり

と、作家の背景や交流関係を示す情報なのではないかと想像できる。そうだとすれば、該当資料の書誌データに、たとえば遠藤周作旧蔵書であることが明示されていれば研究者の役に立つだろうか。あるいは、著者による署名があるとか、著者から遠藤への何かしらのメッセージがあるとか明記した方がよいのだろうか。近代文学研究資料の将来的な有効利用を目指して、まずはこのような資料に関心のある研究者の方々と資料の所蔵機関との間で、アクセス向上のために国際規模で何ができるか共に考え対話できれば一步前進できるように思う。そして、相互にベスト・プラクティスを共有し、結果として研究資料へのアクセスへの格差是正につながれば理想的だと思う。

注

¹ Peter X. Zhou, “At the Crossroads between East and West: The C. V. Starr East Asian Library, Berkeley.” Chap. in *Collecting Asia: East Asian Libraries in North America, 1868-2008* (Ann Arbor, Mich.: AAS, Inc., 2010), p. 70-71.

² Vickie Fu Doll and Wen-ling Liu, “Council on East Asian Libraries Statistics 2020-2021 for North American Institutions,” *Journal of East Asian Libraries* 174 (Feb. 2022), p. 41.

³ 村上濱吉旧蔵資料・三井文庫旧蔵資料・遠藤周作寄贈資料の受入れ当時の総点数は以下に拠る: 前出¹, p. 71-73.

⁴ 西村真次編『村上太三郎伝』（九曜社、1939年）, p. 408.

⁵ Donald H. Shively, “The Mitsui Bunko and Murakami Bunko,” 『早稲田大学図書館紀要』第35号（1992年1月）, p. 3.

- ⁶ 八木福次郎「川島五三郎さん」(愛書家・思い出写真帖 29)『日本古書通信』第 934 号 (2007 年 5 月), p. 31.
- ⁷ OPAC の使い方は以下を参照: University of California Berkeley Library, “UC Library Search user guide.” <https://guides.lib.berkeley.edu/uclibrarysearch> (参照 2022-12-18) .
- ⁸ Roger Sherman, “*Acquisition of the Mitsui Collection by the East Asiatic Library, University of California, Berkeley*” (Master’s thesis, University of California, Los Angeles, 1980), p. 23.
- ⁹ 『三井文庫：沿革と利用の手引き』(三井文庫, 1988 年), p. 15.
- ¹⁰ 以下に主な成果をあげる: 岡雅彦他編『カリフォルニア大学バークレー校所蔵三井文庫旧蔵江戸版本書目』(ゆまに書房, 1990 年); カリフォルニア大学バークレー校旧三井文庫写本目録稿『調査研究報告』5 (1984 年), p. 261-340.
- ¹¹ HathiTrust, “Help—Copyright. What are the different copyright statues of items in HathiTrust, and what do they mean?” https://www.hathitrust.org/help_copyright (参照 2022-12-18) .
- ¹² 逸見久美「与謝野夫妻と出版者明治書院と金尾文淵堂」『日本古書通信』(2013 年 1 月号), p. 4-6.
- ¹³ 逸見久美編『与謝野寛晶子書簡集成 第 4 巻』(八木書店, 2003 年), p. 257.
- ¹⁴ 土肥慶蔵『鶚軒文庫蔵書目録. 和漢書分類之部』(土肥慶蔵手写, 1929 年) . <https://dl.ndl.go.jp/pid/1873003/1/1> (参照 2022-12-18) .
- ¹⁵ 町泉寿郎「カリフォルニア大学バークレー校所蔵の土肥鶚軒旧蔵日本漢詩文書目録 (稿)」『日本漢文学研究』17 (2022 年), p. 147-190.
- ¹⁶ 土肥慶蔵「日本の詩文集」『文藝春秋』(1928 年 1 月), p. 14-15.

- ¹⁷ 国立国会図書館 “鸛軒文庫 (漢詩文関係)” (リサーチ・ナビ) .
<https://rnavi.ndl.go.jp/jp/oldmaterials/theme-honbun-304011.html> (参照 2022-12-18) .
- ¹⁸ California Digital Library, “Where to find our books.”
<https://cdlib.org/services/pad/massdig/where-to-find-our-books/> (参照 2022-12-18) .
- ¹⁹ “Digital Collectons / University of California, Berkeley Library.”
<https://www.lib.berkeley.edu/find/digital-collections> (参照 2022-12-18) .
- ²⁰ “カリフォルニア大学バークレー校 C. V. スター東アジア図書館所蔵日本関連
 特殊コレクション”. 立命館大学アトリサーチ・センター .
<http://www.arc.ritsumeai.ac.jp/lib/vm/UCB/> (参照 2022-12-18) .
- ²¹ 今野真二「手書きテキストの翻字」『言語教育研究』12号 (2020年7月) , p. 19-42.
- ²² UC Berkeley Library, “Responsible Access Workflows” in “UC Berkeley Library makes
 it easier to digitize collections responsibly with novel workflows and bold policy” (May
 14, 2020). <https://news.lib.berkeley.edu/responsible-access> (参照 2022-12-18).
- ²³ Donald H. Shively, “Gift of Contemporary Japanese Literature,” *CU News*, vol. 41, no.
 19 (5/15/1986), p. 4.
- ²⁴ 以下によれば、その後日本キリスト教芸術センターは 2002 年の閉鎖にあたり、
 遠藤周作旧蔵資料 2,200 冊を町田市に寄贈している: 「町田市民文学館」
 『遠藤周作事典』 (鼎書房, 2021 年) , p. 463.
- ²⁵ 中井万知子「カリフォルニア大学バークレー校「三井プロジェクト」終了」
 『カレントアウェアネス』CA607, no. 119 (1989.07.20); *East Asiatic Library Annual
 Report 1989-90* (October 1990), p. 7.